



## ライオン学校伝書鳩通信

～夏休みの宿題がんばろう！成長の夏～

夏休み中のライオン学校は「夏休みの宿題をしよう」ということで活動しています。夏休みの宿題支援はこれまでに3回行ってきており、今年で4回目となりました。

### 宿題終わった！！

これまでの夏休みの宿題支援は、夏休みの最後の休日に行っていたのですが、今回は例年より早めの開催となりました。宿題が終わっていない子も、すでに残すところわずかの子も活動に参加しました。出会った頃は、大半が低学年だったライオン学校の子どもたちも、今ではみんな高学年となり、宿題の内容もレベルアップしていました。しかし驚くこと



に、宿題に向かう子どもたちの姿勢はさらにレベルアップしていました。昨年までは宿題を持ってこないで一緒に家まで取りに行き、やっとのことで最後の最後に1ページだけ取り組んでいた子が、活動場所に来たとたん宿題に向かいどんどん問題を解いていきます。また、中学生の男の子は、脇目も振らず難しい課題に1日中取り組んでいました。昨年とは全く違う光景にスタッフは思わず目を張りました。勉強を頑張っている子がいる一方で、すでに宿題が終わっていて暇を持て余している子もいました。外は暑くて出たくない、やることもないということで音を出してゲームや携帯を始めてしまいます。私たちスタッフは勉強している子を優先したいがために、その子たちを何度も注意してしまいました。しかし、宿題の終わっている子たちが勉強している子たちの勉強の妨げとなるような行動をとってしまった原因は、ゲームや携帯以外に、その子たちが取り組めることを用意することが出来なかった、私たちに問題があったのだと思います。今回の2日間の活動の中で子どもたちのほとんどは宿題を進めることが出来たので、活動の



目的は達成することが出来ました。しかし、活動の目的にとらわれ過ぎず、活動を柔軟に応用させていかなければならないと感じました。

## 子供たちだけでお昼ご飯を用意しよう

これまで、活動中のお昼はいつもスタッフが用意していました。しかし、1日目のお昼は子どもたちだけでやってみようということになり、メニューの「焼きそば」だけはスタッフが決め、他のことは子どもたちに任せました。焼きそばの材料を考え、買い物に行き、領収書を発行してもらい、やきそばを作る、すべてを任せること



は初めてでした。様子を見ていると6年生の子どもたちが自分たちで役割を分担し、すべて難なくこなして



てくれました。昼食の用意を余裕でこなしている姿に、子どもたちが自分たちだけで出来るようになったことがまた一つ増えていることを改めて知ることができました。子どもたちの作ってくれた焼きそばは、とてもとても美味しかったです。

## 「走らない！騒がない！」注意の連続・・・

前回の支援通信にも書いた、仮設集会所の「利用マナーの厳格化」に今回も悩まされることになりました。私たちとは別に子ども支援をしている団体の利用マナーがあまりに悪かったために集会所利用のルールが厳しくなり、破った場合は利用禁止の処分になってしまう事態になっています。その内容は、「集会所内で走らない・騒がない・物を壊さない」と当たり前のもなのですが、以前より厳しく管理されるため子どもたちも窮屈さを感じつつ遊ぶことになってしまっています。利用禁止を言い渡された団体はその地域のすべての集会所を使えなくなっており、活動ができていませんでした。私たちとしても集会所を使えなくなってしまうのは大変困る事態なので、結果として活動中強く子どもたちの行動を注意し制約してしまうことになりました。

元気いっぱいエネルギーに満ちあふれている子どもたちは、ルールを理解していても無意識にとっさに走ってしまったり、大きな声を出して騒いでしまったりしてしまいます。行き過ぎた行為は良くないにしても、これは仕方のない事です。しかし、「利用



禁止」を前に私たちは強く注意しなければいけません。「子どもたちが自分たちで気付くのではないか」と少しの間だけ様子を伺うこともできません。それは明らかに「子どもたちのためを思った注意」ではな

2014年8月10日発行

く、ひたすら「大人の都合のいいように子どもたちを管理するための注意」です。このことに支援隊一同、やるせなさを感じています。

使わせていただいている以上ルールはしっかりと守らなくてはなりません。今後の活動においてこの「やりにくさ」をどうやって解消していくかを考えていかななくてはなりません。

## 1年半振りにライオン学校のみんなに会って 古浦新司

(昨年度まで一緒に支援を行ってきた大学生スタッフの古浦さんが今回、1年半振りに活動に参加しました。古浦さんは福岡の大学院に進学し、今年度は活動に参加していなかったため、久々の再会となりました。)

進学のため関東を離れ福岡へ移って以来、約1年半振りに万石浦でのライオン学校の支援活動に参加した。久々にやってきた万石浦には、震災から3年以上経った今も以前と変わらずたくさんの仮設住宅が立ち並んでいた。海から離れた内陸部では畑や田んぼだった土地が造成され着々と新築住宅の建設が進んでいたが、仮設暮らしをされている方の多さを考えると落ち着くまでにはまだまだかなりの時間がかかりそうだ。

ライオン隊のみんなとの対面には少し肩透かしをくらった。久しぶりの再会なのだからそれなりのリアクションがあるだろうと期待していたのだが実際は、「おう、来たのか。鬼ごっこすっぺ」となんとも淡泊なもの。逆にそれがライオン隊らしくてとても懐かしい気分させてくれた。再会の感動はなかったが、一人ひとりの成長ぶりには本当に驚かされた。身長を追い抜かれていたり、声変わりしていたりと見た目にはわかる変化も著しかったが、それにもまして勉強に向かう姿勢だったり、友達を思いやる様子だったり、細かな言動のひとつひとつが1年前とは比べものにならないほど大きく成長していた。とりわけ、ある小学生の男の子の変わり様は目を見張るもので、以前までは活動中に勉強なんて全く眼中に無かったのが、今回の支援では「少し遊んだから勉強するか」と“自ら進んで”夏休みの宿題に取り組んでいた。さらには、泣いてしまった友人を気遣ってその子が落ち着くまで昼食を取るのを我慢したり、ルールを破ってゲームをしている人を注意したり、本当に見違える姿を見せてくれた。この1年の間で一体何がそういった変容を彼の中で起こさせたのか？学校での先生方の取り組み、お家の方の取り組みの積み重ねが実を結んだものだと思うが、そこにはきっとライオン学校での3年以上にもわたる粘り強い取り組みも少なからず貢献しているのではないかと感じる。そう考えると、子どもの成長を支える支援活動が長期的かつ継続的に行われる重要性を改めて認識させられた。

残念ながら、変化は良い方向ばかりでもなかった。以前までの伝書鳩通信でも触れられているが、いつも使わせて頂いている仮設集会所のルールがかなり厳しくなっていた。管理される方の目も厳しく、子どもたちもずいぶんと窮屈さを感じていた。またそれとは別に、ライオン隊の間でも学年が上がるにつれて時々刻々と変わっていく人間関係の中で、新しい問題が生じているようだった。ただ、ライオン隊の中で

2014年8月10日発行

共通して、「自分の、そしてみんなの居場所としてのライオン学校」を意識しだしているのが感じられる今、どちらの問題にもきっと子どもたちなりに取り組んでいけるのではないだろうか。

久々の支援参加はいろいろと大事なことを思い出させてくれた。積極的にニュースを見たり支援通信を読んだりしているつもりでも、福岡という東北から遠く離れ、震災に対する認識が希薄なところにいると、自分の中でどんどん問題意識が薄れていくのが分かる。震災の影響は今もまさに続いているのだという当たり前の認識を取り戻せたのが今回の一番の収穫かもしれない。

---

【活動記録】

**支援メンバー**

(8月2日-3日) 今井美里、大林沙紀、古浦新司、藤原弘輝

寄付を頂いた方(5月20日～8月9日)敬称略 今回は残念ながら「なし」です。

---

**ゆうちょ銀行**

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

グループ名:ライオン学校

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: [info.lionschool@gmail.com](mailto:info.lionschool@gmail.com)

**！寄付のお願い！**

継続的な支援のために、お願い致します。寄付を頂きました際には、お手数ですが右下記連絡先までご一報お願いします。